

「話のたねのテーブル」より

オオエノコロ

岩瀬 徹

オオエノコロは、エノコログサ（あるいはアキノエノコログサ）とアワの雑種であるとされる。別にエノコログサの変異のうち、アワへと改良された過程のタイプと考える説もある。雑種説は実験的な裏付けがあるというが、野外を歩いていると、すべてがそうかと思ひ悩まされる。

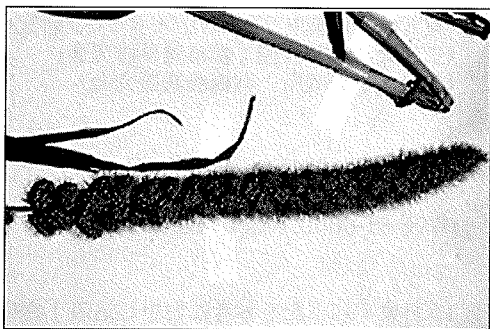
アワとの雑種と納得できるような、穂も茎も葉も大柄なものがある。穂の中軸から出る枝は長くて、それぞれに5～6個の小穂がつく。写真のものは、一方の親はアキノエノコログサに近いようだ。

これに対して、一見エノコログサのように見えながら違うもの、これが意外と多い。穂は立って先の方がやや尖る。穂の枝には5～6個の小穂がついていて、エノコログサとは違う（エノコログサでは穂の中軸から短い枝が多数

出てそれぞれに2～3個の小穂がつく）。葉の色が、緑が濃い。これもオオエノコロとしたいが、上記のものとはいっしょにしていいいかどうか。どのような過程でアワの遺伝子を取り込んだのか、疑問は多い。

『日本帰化植物写真図鑑』（全農教）に「帰ってきたウルトラ雑草」というコラムがある。北米に渡っていたアキノエノコログサがたくましくなって日本に里帰りして広まっているという話である。身近に生えているアキノエノコログサが在来種なのか渡来種なのか、何ともややこしい。

さて、近年たくさん増えているオオエノコロは、その生育ぶりがいかにも外来種である。雑種になって里帰りのしたのか、別の由来なのか確かな情報をまだ知り得ていない。（話のたねのテーブルNo.101より転載）



▲アワの穂



▲オオエノコロの穂、アキノエノコログサとの雑種か

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 (03) 3832-4188 (代)
FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小川 奎
発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

発行所 東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 (03) 3833-1821 (代)
FAX (03) 3833-1665

平成23年7月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第45巻第4号

(送料270円)

印刷所 (有)ネットワン

R100
全紙製品率100%再生紙を使用しています